

〈自分たちでつくるみんなの学校 ～みんなが笑顔になる学校を目指して～〉



成美っ子

学校だより 令和6年度No.2

「帰ってまいりました 笑顔あふれる成美小学校」

教頭 高原 法彦

4月より成美小学校に着任しました、教頭の高原法彦と申します。2年前まで成美小学校に勤務していました。こんなに早く帰ってくることができて、うれしい気持ちでいっぱいです。

さて、大相撲の5月場所。朝乃山の休場が残念な限りです。「ぜひとも早く怪我を治して、大関に返り咲き、いつの日か横綱に…」というのは、私だけでなく、我々富山県民全ての願いではないでしょうか。ところで以前、朝乃山が大関だったころ「富山県からこれまで横綱は出ているのか」と疑問に感じたことがありました。実は、2人いるのです。

一人は、水橋出身の「梅ヶ谷 藤太郎(二代目)」。明治の終わりに、角聖と言われた常陸山と共に、梅常陸時代といわれる、空前の相撲ブームを巻き起こした横綱で、大変人気のある力士でした。

もう一人は、呉羽出身の「太刀山 峰右衛門」。無敵と言われるほどの圧倒的な強さを誇る横綱でした。二人は、ほぼ同時代に活躍した力士で、その名は全国に鳴り響き、当時の富山県の記事を見ますと、県民がいかに真剣に応援していたか、今の朝乃山人気に重なるように、その熱気が伝わってきます。

私は、成美から離れていた2年間、県民生涯学習カレッジというところに勤務していました。様々な仕事をしましたが、中でも、小学校の高学年から一般県民を対象にした、映像教材づくりに携わったことが印象深いことの一つです。

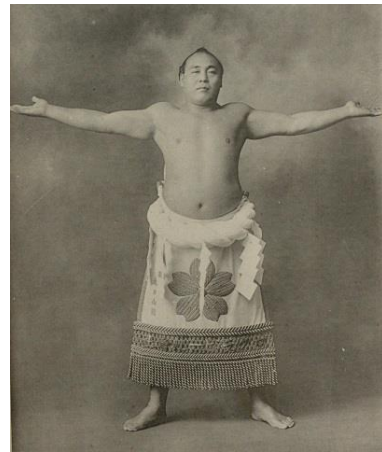
昨年度は上述の県出身の2人の横綱を教材のテーマとして制作しました。百年以上前に活躍した人達なので、制作は難しい面もありましたが、相撲にかける人々の思いや歴史に触れ、大変勉強になる経験でした。教材は「越中横綱伝 梅ヶ谷と太刀山」というタイトルで「とやまデジタル映像ライブラリー」というサイトで視聴できます。まるで宣伝のようですが、よろしければご覧になってください。

私の働いていた県民カレッジは、生涯学習の機関なので、様々な年代の方が学びに来られました。ご高齢の方もとても多く、70代、80代、中には90代の方が来られることも珍しくありません。利用される方たちと接して感じていたのは、その学ぶ意欲の高さでした。ある90代の男性は、映像制作のセミナーで、「地域のお祭りを撮影して保存するんだ」と意気込んでいらっしゃいました。また、ある80代の女性は「なかなか覚えられなかったけれど、また次も参加して、いつかできるようになりたい」とおっしゃっていました。いつまでも学び続ける姿勢に頭が下がり、学ぶことの素晴らしさに改めて気づかされました。

今、笑顔あふれる成美小学校に帰ってきて感じるのは、子供たちの元気さや明るさ、素直さです。そして日々、保護者・地域の皆様の温かさを噛み締めています。微力ではありますが、ぜひ、学ぶことの素晴らしさを子供たちに伝えていきたいと考えています。



【梅ヶ谷】



【太刀山】